

# 学園創立 102 周年祝う



後藤淳理事長（前列左から6人目）を囲み記念撮影する永年勤続表彰を受けたみなさん

## 記念式典、永年勤続 21 人を表彰

この後、永年勤続表彰に移り、勤続四十五年は木村勝行工学部都市環境学科教授ら三人、三十五年は八人、二十五年は三人、十五年は七人の計二十一人の一人ひとりに後藤理事長から表彰状と記念品が贈られました。

これに対し受賞者を代表して勤続四十五年の石垣尚男経営学部教授が「半世紀近く、学園・大学で自由が保障された教育研究環境を



式辞を述べる後藤淳理事長

名古屋電気学園の創立百二周年記念式典は十一月十一日、若水キャンパス淳和記念館で、後藤淳理事長はじめ学園、設置校関係者、来賓ら百四十人余りが出席して行われました。後藤理事長は式辞を述べ「名古屋電気学園の百年を振り返り、これから先の百年の発展へ決意を新たにしたい。皆様のご協力、ご尽力を賜りたい」と訴えました。



謝辞を述べる石垣尚男教授

与えられ、本当によかったと感謝しています。教職員の皆様も学園で仕事ができる幸せを感じてほしい。学園が次の百年に向けてますます発展されることを祈念します」と謝辞を述べました。最後に高校吹奏楽部の伴奏で学園歌を斉唱して式を終えました。

この後、覚王山日泰寺で二十六年度物故者法要が営まれました。（後藤理事長の式辞要旨、永年勤続表彰者名、法要の記事2面）



LEDIについて語る天野教授

ノーベル物理学賞  
天野名大教授が  
本学で特別講義

ノーベル物理学賞を贈られた天野浩・名古屋大学教授が受賞決定直後の十月十四日、愛工大八草キャンパスで特別講義をしまし

た。本学総合技術研究所との関わりで、学生たちにLEDへの思いを直接語ってくれました。学生たちは「めったにない機会、貴重な経験になりました」と話し感銘を受けた表情でした。

▶ 詳細3面



愛知工業大学  
愛知工業大学情報電子専門学校  
愛知工業大学名電高校  
愛知工業大学附属中学校

### 目次:

遺族ら招き法要	2
LEDへの思い	3
2部を学園表彰	4
燃料電池車語る	5
設置校挙げ訓練	6
サイエンス大賞	6
研究成果一堂に	7
湧水湿地を保全	8

発行所

名古屋電気学園

〒470-0392

豊田市八草町八千草1247

TEL (0565) 48-8177

## 高校吹奏楽部16回目の金賞

愛工大名電高校吹奏楽部は十月二十六日、名古屋国際会議場で行われた第

六十二回全日本吹奏楽コンクールの高校の部に出場、三年ぶり、十六回目の金賞に輝きました。▶ 詳細4面

十一月十三日が創立記念日です。大正元年の一九一二年九月に名古屋電気学講習所が始まり、十二月二十五日には電気学校の認可が下りました。今から二年前に学園百周年を迎えました。この百年の歴史を振り返りながら、名古屋電気学園のこの先の百年に続けていかなければいけないと決意をいたしたいと思いません。この講堂も百周年の記念事業として造られました。こういう式場にもなりませんし、普段は高等学校のブラスバンドの練習場にも使われて

### 創立記念式典 後藤理事長の式辞要旨

いるが、もう二年前のことに なります。今年には百二年目を迎えております。

創立記念日は休日と決められておりますので行事は今日、二日前に行われます。永年勤続の表彰を受ける方々、あと年配の役職の方々、大学、高校、中学の先生方、職員の方々、来賓の方もたくさんお見えいただきました。学内の役員、評議員の方にもおいでいただき、こうして式典を行えることは非常に喜びです。並んでいる人の顔を見ると

四十五年を迎えた人、三十五年、二十五年、十五年と永年勤続表彰がありますが、年配になった人も元氣そうな顔を見せていただき私も懐かしく思っています。お見えになったときは元氣いっばい、意気軒昂の青年でした。人間も年を取りますし、こうした歴史の積み重ねが未来につながっていくものだと思います。

毎年、式典の後、学園関係者の物故者法要も行っております。苦しかったとき、辛かったとき、大変なとき、いろいろなときがありました。そう

いうときに一生懸命力を合わせてやってきた方々、亡くなった方々も一緒に喜んでもらうのが、この法要だと思えます。そういう積み重ねで現在があるものと思えます。これから先生方、皆様方、力を合わせて学園の発展のためにもご協力、ご尽力を賜りますようお願いいたします。これから永年勤続者の表彰を行います。一人ひとり思い出もありますが、いつまでもお元気で学校のため、ご自分のため、頑張ってください。

### 永年勤続表彰を受けたみなさん

【勤続45年】 3人  
大学  
工学部都市環境学科教授・木村勝行  
経営学部経営学科教授・石垣尚男  
基礎教育センター教授・山田岳志

【勤続35年】 8人  
大学  
工学部建築学科教授・杉野丞  
情報科学部情報科学科教授・鬼頭繁治  
基礎教育センター教授・阿部幸一

高校  
教諭・織田秀彦  
事務局  
システム管理部部長・近藤修司  
システム管理部参事・山本久雄

大学事務局  
教学センター次長・柴田清司  
図書課係長・柏本智恵美

【勤続25年】 3人  
大学  
工学部電気学科准教授・岩田博之

高校  
教諭・磯部保文  
大学事務局  
エコ電力研究センター係長・堀道子

【勤続15年】 7人  
大学  
基礎教育センター准教授・中村豪

事務局  
財務部会計課主査・奥野佳宏  
管理部管財課主査・西裕之  
秘書室係長・浅井千鶴

管理部管財課係長・田近みえ子  
大学事務局  
経営学部事務室係長・中嶋研索

若水事務局  
係長・岩科誠司

### 物故者遺族ら招き 26年度法要営む

学園の平成26年度物故者法要は11月11日、創立記念式典に引き続いて千種区の覚王山日泰寺で厳かに営まれました。新物故者5人を含む学園関係の物故者遺族が招かれたほか、祭主の後藤淳理事長はじめ学園、設置校関係者、学生・生徒代表ら総勢200人余りが参列しました。



焼香の先頭に立つ後藤理事長



焼香する物故者法要の参列者

読経が流れる中、後藤理事長を先頭に焼香が行われ、物故者の冥福を祈っていました。

後藤理事長は「今年も大勢のご遺族をお迎えし、元氣な顔を見てほっとしています。そして古い人たちのことがいろいろ思い出されます。力を合わせ頑張ってきた、その積み重ねが今ここにあるのだと思います」と挨拶しました。

# ノーベル物理学賞天野名大教授

## LEDへの思い語る

ノーベル物理学賞を受賞した天野浩・名古屋大学教授が受賞決定直後の十月十四日、本学八草キャンパスで特別講義をしました。決定から一週間、フランス出張から帰国したばかりの多忙なスケジュールの中、学生たちにLEDへの思いを直接語ってくれました。学生たちは「めったにない機会なので貴重な経験になりました。これからの勉強の参考になりました」と話し、分かりやすく、気さくな語り口の天野教授の講義に感銘を受けた様子でした。



青色LEDについて語る天野教授

講義は山田英介副学長が天野教授を紹介、盛大な拍手と花束贈呈で始まりました。総研所長の澤木宣彦工学部教授も、天野教授との関わりについて触れ、受賞対象となった青色LED開発当時、名古屋大学赤崎研究室で助教授を務め、研究分野は違いますが、助言する立場でした。今回

天野教授は本学総合技術研究所が中心となって進めている「グリーンエネルギー研究拠点」に共同研究者の一員として参加しており、若手研究者育成のため年間を通じて十五回行われる特別講義を毎年一回担当しています。本来は大学院生が対象ですが、貴重な機会として学部生や教職員らにも開放したところ大講義室いっぱい約三百五十人が聴講に訪れました。



天野教授と握手する澤木本学教授



天野教授の特別講義を聞く学生たち

の講義について澤木教授は「お忙しい中、天野教授にお聞きしたところ、『若い人のためなら』とありがたいお言葉を頂きました」と講義が約束通り実現したいきさつを披露しました。

天野教授はまず「学生時代、研究に没頭できたのも澤木先輩らと毎晩毎晩議論したことが糧となりました。新しいことを生み出すためにはこうした環境が重要でした」と学生たちに語りました。

続く講義では「窒化物光デバイス」の現状と将来」と題して、LEDについて開発の歴史、現状、課題について講義しました。「二十一世紀に入り、窒化物LEDの登場によってLED照明が急速に普及、省エネに大きく貢献しているが、研究

者の立場からするとまだまだ価格や輝度など課題も多く十分ではない」と説明。植物工場や光で動物の動きを制御する医療応用など海外での新しい取り組みも紹介しました。

講義後、天野教授は「若い人たちに伝えたいことがあるので、こういう機会を作ってもらい感謝している」「ポイントを突いた質問も多くデイスカッションができ、ありがたかった」と感想を述べ、後進の若手研究者に対しては「我々の世代以上に頑張ってもらいたい」と激励の言葉を贈りました。

「グリーンエネルギー研究拠点」は文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されている「ナノ材料制御技術による新規太陽光エネルギー利用統合技術の創出」という研究です。

平成二十二年度に採択され、天野教授ら国内外の研究者約四十人が窒化物半導体デバイス、有機デバイス、電力蓄積デバイス、電力変換システムなど様々な方向からアプローチしています。

保護者が出席し大学懇談会  
大学懇談会が十月二十五日八草キャンパスで、十一月一日自由ヶ丘キャンパスで開かれ、大学側と保護者が交流を深めました。

大学後援会の主催で、合わせて五百四十五組、七百三十五人が出席しました。八草の全体会では井研治副学長、立木大介後援会会長が挨拶、杉野丞教学センター長が大学生活全般について、渡辺修キャリアセンター長が就職状況について説明しました。

就職状況については今年度から就職活動の解禁が三カ月遅くなる影響についても触れました。この後、専攻別に保護者と教員との個別懇談が行われました。



大学懇談会に出席した保護者ら

学園は十二月十二日、名電高校吹奏楽部と附属中学校卓球部を学園表彰しました。同表彰は全国規模以上の大会、コンクール等で優勝したクラブを顕彰し、今後の活躍を祈るもので、後藤淳理事長から表彰状が贈られました。

### 高校吹奏楽部、附属中卓球部

## 2クラブを学園表彰

学園表彰を受ける田中佑汰選手ら附属中卓球部の皆さん



学園表彰を受ける神山なつみ部長ら高校吹奏楽部の皆さん



附属中卓球部は田中佑汰選手（二年）が十一月一日（三日、滋賀県立体育館で開催された平成二十六年全日本卓球選手権大会（カデットの部）の十四歳以下男子シングルスで初優勝しました。決勝で田中選手はJOCエリートアカデミーの宇田幸矢選手と対戦、3-2で破りました。田中選手をはじめ監督の真田浩二教諭、増田朗顧問、今枝一郎顧問、董崎岷コーチが表彰されました。

高校吹奏楽部は十月二十六日、名古屋国際会議場で行われた第六十二回全日本吹奏楽コンクールの高校の部に出場、三年ぶり、十六回目の金賞に輝きました。名電高校は最多三十七回目の出場で、今回の自由曲は保科洋作曲「復興」でした。保科さん自身が名電高校を訪れて指導、曲への

思いを伝え、生徒たちも東日本大震災の被災者への思いや名電の伝統『絆』の気持ちを重ねて演奏。指揮をした顧問の伊藤宏樹教諭は「強豪校が多く逆に気負いなく落ち着いて演奏できました。恵まれた練習環境も大きいです」と振り返りました。コンクールに出場した吹奏楽部員五十五人をはじめ伊藤教諭、小林知広顧問、鈴木裕子顧問が表彰されました。

表彰式は若水北校舎で行われ、学園や設置校幹部、両クラブ部員らが見守る中、後藤理事長が「おめでと」と声をかけ表彰状を手渡しました。式の後はケーキと飲み物で懇談しました。

なお一五五号でお知らせした、四連続全国制覇を成し遂げた附属中学校卓球部と、相撲の世界ジュニア選手権で優勝した高校相撲部の中嶋亮介選手（三年）に対する学園表彰は九月三十日に行われています。

吹奏楽部の新春の定期演奏会は一月十八日、名古屋国際会議場で開かれ、節目の五十回目を迎えます。

### 後藤すゞ子先生奨学金交付

学園は「後藤すゞ子先生奨学金」を、九月十九日には高校生の母親に、十一月二十日には大学工学部学生の母親にそれぞれ交付しました。元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づき奨学金は、父親の死去、失職などで学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるように支援するものです。



高校生の母親に奨学金を手渡す後藤淳理事長

高校生の母親への交付式は若水キャンパス高校校長室で行われ、後藤淳理事長が、すゞ子先生が奨学金を設けた思いを説明し、母親に「頑張ってください」と奨学金を手渡しました。後藤理事長は生徒にも「くじけず、お母さんを助けて学業を続けるよう頑張ってください」と励ましました。

### も同席しました。

大学生の母親への交付式は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤理事長が母親に「子供さんが社会人になるまで頑張ってください」と手渡しました。後藤理事長は学生にも「君の努力、頑張りようです。家族みんなで力を合わせて学業を続けてください」と励ましの言葉をかけました。後藤泰之学長ら大学、学園幹部も立ち会いました。



大学生の母親に奨学金を手渡す後藤淳理事長

### ピンポン外交記念碑予算化

「ピンポン外交」の舞台となった愛知県体育館に設置される記念碑の設置費用として一九八三万円が同県の平成二十六年度補正予算案に計上されました。県は大きな陶壁設置を考慮しており、来年三月の完成を目指しています。

# 「MIRAI」開発語る

## 愛名会講演会でトヨタ・河合部長



燃料電池車「MIRAI」の開発や市場の創出について語るトヨタ自動車の河合大洋部長

名古屋電気学園の後援組織・愛名会と中部産業連盟共催の講演会が十二月八日、名古屋市の名古屋東急ホテルで開かれました。産学共同事業の一環として毎年開かれ、ことしはトヨタ自動車技術統括部担当部長の河合大洋氏が「燃料電池自動車（FCV）の開発と初期市場の創出」と題して一時間余り講演しました。トヨタがこの燃料電池車を「MIRAI（みらい）」の名前で、一週間後の十二月十五日に世界で初めて発売する直前とあって関心も高く、会場いっぱい約三百人余りが熱心に聞き入りました。

はじめに愛名会の佐々木

眞一会長、後藤淳学園理事長らが挨拶。続く講演で河合氏はまず自動車の技術革新の歴史や原油供給の見通しなど現状に触れ、さらに燃料である水素の特徴についても説明しました。「水素は大量に存在する将来の有力なエネルギー。高圧水素タンクなど材料、製品の技術で日本は世界のトップレベルにあり、きちんと管理すれば安全に使いこなせる」と話し、さらに再生可能エネルギーと水素を組み合わせたドイツのスマートエネルギーのプロジェクトなど

も紹介し、将来性や安全性を強調しました。トヨタのFCV開発は一九九二年に始まりましたが、「日米で百台以上のFCVの走行実績があり、既に二百万キロを突破している。燃料電池システムのコストも二十分の一にまで下がった」と振り返りました。「MIRAI」に関しては「車両サイズはクラウンとマークXの間に位置し、特に空力性能では高温の排ガスが発生しない特性を生かし床下をフルカバー化、空気抵抗を低減し、低燃費にも貢献している」と指摘しました。

「理系の風を感じて：」  
名電高校で講演会  
名電高校では「理系の風を感じてもらおう」と毎年秋、一年生を対象に二つの講演会が開かれています。今年も十月二日にはカーボンナノチューブの大量生産

も紹介し、将来性や安全性を強調しました。トヨタのFCV開発は一九九二年に始まりましたが、「日米で百台以上のFCVの走行実績があり、既に二百万キロを突破している。燃料電池システムのコストも二十分の一にまで下がった」と振り返りました。「MIRAI」に関しては「車両サイズはクラウンとマークXの間に位置し、特に空力性能では高温の排ガスが発生しない特性を生かし床下をフルカバー化、空気抵抗を低減し、低燃費にも貢献している」と指摘しました。

トヨタは二〇一五年末までに日本で約四百台販売する目標で、FCバスも二〇

一六年ごろに発売される予定ですが、河合氏は「水素は既に産業用に大量生産されているが、水素を運んで充填する水素ステーションの整備が最大の課題。来年には四大都市圏を中心に四十基程度の稼働を期待している。二〇二〇年以降の普及拡大を目指し、FCVの更なるコスト低減も推進したい」と結んでいました。

### 旭日重光章を受章の蛇川さん

#### 本学大学院で経営戦略論を講義

今年秋の叙勲で旭日重光章を受章した元日野自動車社長の蛇川忠暉さんは本学大学院経営情報科学研究科

の客員教授を務め、大学院生に経営戦略論を講義しています。

蛇川さんはトヨタ自動車の副社長から日野自動車の

社長に転じ、同社の経営を立て直したことで知られます。現在は同社の特別顧問で、本学客員教授には昨年



蛇川忠暉さん

4月に就任、本山キャンパスで年間3回の講義を担当しています。

業界の常識にとらわれぬ経営を推し進めた蛇川さんは学生に対し「若い人には可能性が無限です。論語に『教えありて類なし』という言葉があります。一年を大切に過ごしてください」とコメントを寄せました。

技術を開発、ノーベル賞候補ともいわれる遠藤守信州大学特別特任教授が講演、十一月六日には、からくり人形師九代玉屋庄兵衛さんを迎え「からくり人形講演会」が開かれました。ともに愛工大客員教授を務めています。遠藤教授の最先端の科学技術、玉屋さんのものづくりの原点、この二つをセットで聞いてもらい、まだ進路が定まっても



からくりについて語る9代玉屋庄兵衛さん

いない一年生に参考にしてもらおうという趣旨です。講演会に出席した一年生六百四十五人を前に玉屋さんは「名古屋で三百年続くものづくりの原点を知ってほしい」と話し、「茶運び人形」「弓曳き童子」「からす天狗」などを実演・解説。生徒たちも興味深そうに聞き入っていました。

### 5500人が参加 大規模に防災訓練

#### 大学中、心に設置校

学園は十一月七日、大学を中心に全設置校挙げ約五千五百人が参加する大規模な防災訓練を行いました。M8.5の東海・東南海連動型の巨大地震が紀伊半島沖を震源に発生、学校周辺では震度6弱が予想されるとの緊急地震速報に基づいた訓練です。

訓練は午前十一時四十分五十五秒に地震発生との想定で始まりました。緊急地震速報を受信すると、サイレンとともに「地震が来ます」との放送が各設置校に流れ、授業中の学生、生徒たちは机の下に隠れるなど退避。大きな揺れが収ま



大学では担架での搬送訓練も



高校生はDVDで地震の勉強も



専門学校の学生は机の下に退避

ると同時に一斉に避難が始まりました。

大学八草キャンパスでは本部棟に学園の対策本部、地域防災研究センターに大学の対策本部が設けられ、負傷者や建物被害の情報収集など学内訓練を統括しました。三千人余りの学生はサッカー場に避難、安否確認が行われ、放水、初期消火、担架搬送などの訓練もありました。設置校の名電



若水南校舎では中庭に避難

高校、附属中学校、専門学校でも同時刻に連動して訓練を行いました。

本学の大規模防災訓練は今年で九回目を数え、先進的な事例として他大学や企業など学外からの見学者も二十人近くに上り、正木和明地域防災研究センター長が説明していました。

今回は情報科学科の中村栄治教授と都市環境学科の小池則満准教授らが「スマートフォンによる避難誘導・安否確認システムの実験」も行いました。学生がスマホに番号を入力すると進むべき方向が表示され、最終的な避難場所の学内サッカー場まで誘導。途中の通過状況、避難場所への到着がすべてサーバー上に情報として蓄積される、というものです。

### 自然科学やものづくり 高校生が研究成果発表 A-I-Tサイエンス大賞

科学技術立国を支える若者の育成を目的に本学が制定しているA-I-Tサイエンス大賞の研究発表会が十一月八日、八草キャンパスで開かれました。愛知、岐阜、三重、静岡、長野の東海五県の高校生を対象に自然科学やものづくり研究に対する熱意と成果を顕彰するもので、今年十三回目を迎えました。自然科学部門と、ものづくり部門に合わせて過去最多二十三校、三十五件の参加があり、熱意に富んだ研究が数多く発表されました。



高校生が研究成果を発表した  
AITサイエンス大賞

五分ずつ礼儀正しく元気いっぱいプレゼンテーションを行いました。午後にはパネル展示発表があり、さらに詳しく説明していました。

研究内容は多彩で、自然科学部門は正木和明都市環境学科教授を委員長に、ものづくり部門は成田国朝工学部長を委員長にそれぞれ九人の教員が審査しました。パネル展示会場では高校生がお互いにブースを訪ねて質問するなど活発に交流し、成田工学部長は「生徒同士が情報交換、刺激し合って研究の輪が広がっています」と話していました。

審査結果は次の通り。

**自然科学部門優秀賞** 岐阜高校「揖斐川水系支流におけるイワナとアマゴの属間雑種の解析」、一宮高校「ホタルの発光について」、時習館高校「おいC! うれC! ビタミンC!」

**ものづくり部門優秀賞** 一宮高校(A)「糖類燃料電池の高性能化」、岡崎高校「改良型ウイムズハースト式起電機」、愛工大名電高校「画像処理によるシャボン玉の検出及びインタラクティブコンテンツの制作」

### 研究成果を一堂に披露 愛工大テクノフェア

愛工大テクノフェア2014が十一月二十一日、八草キャンパス一号館を会場に賑やかに開かれました。本学総合技術研究所はじめ各研究センター、大学院、学部の産業技術に関する研究ポテンシャルを企業や地域社会に公開し、産学連携や共同研究に活かすもので、一昨年に続き二回目の開催です。また本学が取り組んでいるグリーンエネルギー研究拠点の国際シンポジウムも併催されました。



テクノフェアでは正和明地域防災研究センター長(都市環境学科教授)が「南海トラフ地震に備えた地域防災力の向上技術」と題し

て特別講演、この中で「巨大地震から地域産業を守るための緊急地震速報の活用」を提案しました。引き続き本学客員教授でからくり人形師の九代玉屋庄兵衛さんが「茶運び人形」や「弓曳き童子」を実演・解説しました。

午後は工学部、情報科学部の教授五人による講演会があり、青木道宏電気学科教授が「やわらかい通信ネットワーク」、森田靖応用化学科教授が「ポストリチウムイオン二次電池への挑戦」、今野彰機械学科教授が「宇宙開発分野に求められる技術シーズ」、河路友也建築学科教授が「空気調和システムの省エネルギー」、中條直也情報科学科教授が「ITが支える自動車と今後の課題」と題して順次講演、企業関係者らが熱心に聴講していました。展示ブースでは約六十件の研究発表があり、本学教員が詳しく説明していま

正和明地域防災研究センター長が地域産業を守るための緊急地震速報の活用を提案した特別講演

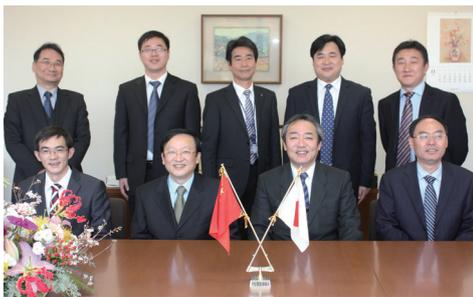
した。

グリーンエネルギー研究拠点は最終年度の五年目を迎え、低炭素社会実現をテーマに太陽光発電や蓄電装置、統合システムの開発を目指しています。成果は五十件を超す学術論文として公表され、国際的連携も広がりを見せています。

三回目となる国際シンポジウムは二十一日から二日間開催され、初めに後藤泰之学長

### 東南大校長ら大学へ

東南大学の易紅校長を团长とする大学幹部六人の訪日代表団が十一月十八日、八草キャンパスを訪れ、後藤泰之学長らが出迎え、山田英介両副学長も同席して



後藤泰之学長(右から2人目)、易紅校長(学長の左)を囲み記念撮影する訪問団員ら

が「科学技術の発展は我々に利便性と豊かさを与えてくれましたが、一方で地球環境の保全という新しい課題も発生しました。本研究が低炭素社会実現に大きな貢献を果たすことを期待しています」と挨拶しました。この後、豊田中央研究所の加地徹技監はじめ韓国、フランス、インド、中国、タイの八人の研究者がそれぞれ招待講演をしました。

歓迎の懇談があり、後藤学長が「両校の交流は三十年以上続き、学生同士の交流も充実してきました。今後研究面の交流も活発にしていきたい」と挨拶、易紅校長も「今回は工学部最年少の二人の若手院長(日本の学部長に相当)も同行しました。ぜひ学術交流も同時に深めていきたい」と応じていました。

この後、易紅校長らは学内を見て回りました。特に東南大では大型の耐震振動実験室を建設中と言い、「参考にしたい」と本学の耐震実験センターを見学しましたが、鈴木森晶都市環境学科教授の説明に、熱心に質問をしていました。

### 豊田市民美術展で市長賞

専門学校情報工学科コンピュータグラフィックスコースの一年生二人が第五十二回豊田市民美術展で市長賞などに輝きました。いずれもグラフィックデザイン部門で、保科育哉君の作品「慟哭(どうこく)」が市長賞、小嶋五月さんの作品も市議会議長賞でした。



「慟哭」(A1)は、黒い

背景の前で兵士の持つライフル銃の先の戦争犠牲者の口から Pain(苦しみ)が流れ落ちている構図。写真。保科君は「世界で戦争が問題になっている中で平和への思いを込めました」と意図を話しました。二人は「コンクールでの受賞は初めてでとてもうれしい。自分の気持ちが表現できました」と喜んでいました。作品は市民ギャラリーに展示されました。

### 湧水湿地保全 学生ら樹木の伐採作業



海上の森に近く、豊かな自然に恵まれた本学八草キャンパスにある小さな湧水湿地を保全するため、湿地に影響を及ぼすとみられる樹木の伐採が学生らの手で行われました。写真。

海上の森に近く、豊かな自然に恵まれた本学八草キャンパスにある小さな湧水湿地を保全するため、湿地に影響を及ぼすとみられる樹木の伐採が学生らの手で行われました。写真。

シャブシは他の樹木と違って、土壌からだけでなく空気中からも窒素を栄養として利用できる、この樹木から大量の落葉が湿地に落ちると貧栄養湿地の土壌が急速に富栄養化してどこにでもある植物が侵入し、地域固有の植物が減びてしまう恐れがあります。

そこで、本学の生態系ネットワーク委員会（委員長・内田臣一都市環境学科教授）では、市道を管理する瀬戸市の関係者も招いて議論した結果、ヤシャブシ

#### 松原さん愛知県教育表彰

元学園管理部長で愛知県卓球協会副会長・理事長の松原暁美さん



写真が十一月十九日、愛知県教

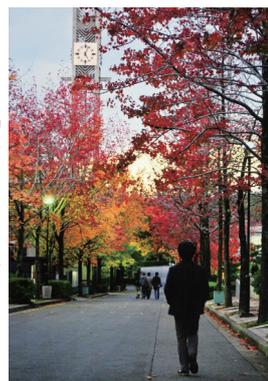
の伐採を決めました。また、本学によるこれら湧水湿地の保全などの取り組みは「東部丘陵地域における大学キャンパススピートアップ整備事業」の一環として愛知県から助成を受けられることになりました。

十月二十五日の伐採には同学科土木工学専攻四年の鈴木悠平君ら九人の学部生が参加、伐採や雑草の刈取りに汗を流しました。市道沿いに約三十メートル、市道の歩道からも湿地がよく見下ろせるようになりました。

内田教授は「自然を守るために木を切る、という一見わかりにくい作業の目的を学内外の方々が理解してくれたので実現した取り組みです。今後も皆さんの理解と協力を得て、大学周辺で自然の質を高める取り組みを進めたい」と話していました。

育委員会から県教育表彰を受けました。松原さんは学園職員として勤務する傍ら昭和五十九年に県卓球協会理事に就任し、現在に至るまで三十年にわたり卓球競技の普及・振興に努め、その功績が認められました。

### 紅葉の八草キャンパス フォトコンテスト開く



1位の「薄明のキャンパス」

本学八草キャンパス恒例の「秋の紅葉フォトコンテスト」が十一月一日開かれました。紅葉が始まった美しいキャンパスで散策を楽しんだり、風景を撮影してもらおうと毎年構内を開放しており、今年で四回目になりました。

あいにくの雨模様の天気でしたが、カメラ愛好家や地域住民らが多数訪れ、傘を差しながら、落葉樹の並木や時計塔、初代学長の後藤鉦二先生像などにレンズを向けていました。

後藤泰之学長らが審査した結果、一位には名東区の安藤沙也伽さんの「薄明のキャンパス」が選ばれました。秋の静かな夕暮れ時を撮影しました。この他、二位に富田誠司さん（豊田市）の「降りそそぐ秋」、三位に寺島直樹さん（長久手市）の「深まる秋」、学長特別賞に山田英治さん（瀬戸市）の「前も後ろも！」が選ばれました。

作品は十二月十六日から一月三十一日まで八草キャンパス一号館で、二月十四日から三月十四日まで本山キャンパスで展示されます。



2位の「降りそそぐ秋」



3位の「深まる秋」



学長特別賞の「前も後ろも！」